

佐渡に学ぶ SDGs

東京工科大学 SDGs 佐渡

教員：吉岡 英樹

メディア学部 3年：石島嘉大

メディア学部 3年：榊原実莉

メディア学部 2年：村山亮人

発表概要

1. 活動のきっかけ

東京工科大は 2007 年より佐渡市で、ビオトープの整備、竹林整備などを中心にボランティア活動を行ってきました。2021 年からは同メディア学部にて、メディアに関する専門知識を生かした演習として「SDGs 佐渡」がはじまりました。SDGs 佐渡は「佐渡の持続可能な未来につながる活動」という方針のもと、これまでのボランティア活動の拠点の一つであった佐渡市岩首をフィールドとし、地域課題に関して、専門であるメディアの技術や知識を活用することで、その解決に貢献することを目指しています。

2. これまでの実績

2021 年度前半は、コロナ禍のためオンラインでの活動を行いました。まずは、佐渡、そして岩首を知ること为目标に、資料を中心とした調査を開始しました。次に、7 月には、佐渡を知ってもらい、ともに活動する学内外の「仲間」を増やすことを目標に、オンラインでのイベントを企画、実行しました。イベントの準備から実施まで、ビデオ会議システムを利用して、岩首の方にご協力を仰ぎ、さらにご出演を頂きました。

2021 年度後半は、現地の方からのヒアリングと依頼から 2 つのプロジェクトをたてました。一つは岩首昇竜棚田の看板設置です。岩首昇竜棚田を訪れる人が増えた結果、地域でいろいろな問題が発生しました。そこで訪問者に見学マナーを示しながらも、景観を壊さない看板作りをはじめました。もう一つは、ボランティア活動のリピーターを増やす仕組み作りです。これまで岩首には多くの若者がボランティア活動に訪れましたが、リピーターとなる人は決して多くはありませんでした。そこで岩首を訪れた人が、今後も自主的にかつ継続的にボランティア活動に参加するため、他の地域の例を参考に、ゲーム的に楽しめる「クエスト」と呼ぶ仕組み作りに着手しました。

2022 年 3 月には、メンバーで岩首を訪れることができました。その際、情報発信の素材集めとして映像や画像の撮影を行い、活動の報告会を開催しました。報告会では、看板のデザイン案とクエストの説明を行い、改善に向けたご意見をたくさん頂きました。

2022年度前半は、報告会でのご意見をふまえ、看板の作成、クエストの仕組みの改良と活動に必要なスタンプカードなどのデザインを行いました。8月岩首の実習では、看板の設置と、同時期にボランティア活動を岩首で行っていた団体の協力を得て、クエストの試験運用をはじめました。岩首の「竹灯りの集い」では、会場の準備とオンライン配信を行いました。今回も報告会を開催し、今後のヒントになるご意見を頂きました。

2022年度後半は、クエストの仕組みやグッズのデザイン改善、新しい情報発信の方法を検討しました。クエストではカードのデザインなどの変更を行いました。情報発信では、佐渡や岩首のことを対外的に知ってもらうため、SNSを利用してSDGs佐渡の活動状況と、学生が佐渡の郷土料理を実際に作った様子の配信を始めました。また岩首に向けては、これまでの活動の報告として紙で「かわら版」を作成し、次回訪れた際に配付を予定しています。

3. 地域との連携

これまでSDGs佐渡では、岩首談義所の関係者の方を中心とした現地の方々からのご協力を頂いたことで、地域の課題を発見し、その解決をプロジェクトとして計画し実行することができました。看板の設置とクエストはその具体的な例です。報告会に加え、コロナ禍という状況のなか、ビデオ会議システムを活用し、オンラインでも岩首の方々との意見交換を積極的に行ってきました。相互の意見交換の積み重ねが、SDGs佐渡の活動基盤となっています。

4. 今後の課題と活動について

今後の活動の一つ目は、対外的、対内的な情報発信をより積極的に行うことです。SNSでは佐渡や岩首を知らない人たちに向けて郷土料理に加え、現地の状況をより詳しくそして魅力的に伝える活動を行います。またかわら版を配付することで、現地でのSDGs佐渡の活動に対する理解と認知度を向上したいと考えています。課題は、受け手にとってより分かりやすく魅力的な内容と適切な表現方法を模索することです。

二つ目は、クエストの本格的な実施に向けての準備を進めることです。これまで岩首の方々との話合い、報告会での意見聴取、デザイン案や仕組みの再検討、試験運用を行ってきました。課題は、これからより運用を拡大することで、より参加者が自主的に継続的に楽しんで行えるよう、クエストの制度の改善を進めることです。

三つ目は、岩首での調査活動の充実です。これまでは各種データや文献を使って岩首の文化や社会の調査を行い、またオンラインでの意見交換や実際に訪問し現場を体験することで、岩首への理解を深めてきました。課題は、組織的に現地でヒアリングを行うことで、岩首への理解をさらに深めるとともに、SDGs佐渡の活動につながる新しい地域課題を発見することです。